



子どもと写真と

園長 笛木 哲

コロナ禍にあり、少しでも幼稚園での子どもたちの姿を保護者の皆様にお伝えしたいという思いから始めたHP『今日の保育』(写真)です。カメラを向けるとポーズを撮ってくれる子、自分から「写真を撮って」とせがむ子もいますが、それ以外は全てやらせなしです。レンズを通して見える子どもの世界も魅力いっぱいです。



「生活発表会予行」(いつもの練習とは違い、理事長他、数名の教師が参観)。演技をしている途中で背景画がずりとはがれるハプニング。ハッとすると、控えて座っている女兒がそれに気づき、さっと手を伸ばし紙を支えます。彼女の機転で、演技は何事もなく続けました。演技が進行している中、自分に何ができるか、この場ではどうすることがふさわしいか、私はどう行動すべきか、一瞬の判断だったと思います。『気づき、考え、行動する子』が私たちの目指す子どもです。



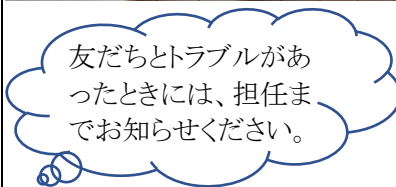
「個性」を大切にすると言いますが、同じ学年でも、手のひらの大きさ、指の長さは違います。子どもの思いもそれぞれです。先日「課外活動をやりたいと言うのですが、『自分でやると思ったのだから最後まで続けなくちゃダメ』と言ってしまいました」とお母さんからお聞きしました。ずっと昔に私が出会った子の作文です。「ぼく習字をならいに行つてすぐやめたし、そろばんも行ってすぐやめた。今度水泳に行きたいと言つたらママが、『だめ。サトシは三日坊主だから』と行かせてくれなかった。でも、ぼくはあきっぽいのはちがうよ。行ってみて、自分にあわなかったから、やめただけだ。自分にあうものをさがしているんだ。」子どもの思いも様々ですね。



「生まれて初めて(できた)」に出会えた喜びといたらありません。その瞬間は、子どもにとっても親御さんにとっても大切な宝物。そういう一瞬一瞬の輝きの積み重ねが、子どもの未来をつくります。そして、そういう人生の大切な瞬間を見逃さない教師の感覚は、私にとっては宝物です。



「友達100人できるかな」という言葉から、「友だちはたくさんいる方が良い」と思い込み、「お友達と遊んでいるかしら。もし一人でいたら…」と心配になるのが親心です。でも、年少の頃は、友だちとの交流を楽しむより自分の思いが優先する年頃です。殴った、蹴った、噛んだ…とトラブルがつきものです。そういう世界を乗り越え、子どもは自分の力で世界を広げていきます。年長児でも一人遊びを好む子は、集団活動に参加できるなら問題ありません。友だち付き合いの楽しさを知るといつの間にか友と手を繋いで笑い合っています。引っ込み思案の子は、友だちの輪に入れるように教師がそっと手伝います(席替えやクラス遊び等)。でも、大人がどんなに心配し、手を尽くしても、友だちとの関係をつくるのは子ども自身です。時間がかかる子もいます。そっと待つことも大切な援助です。



個人面談 ありがとうございます



担任から面談内容を報告してもらいました。174名分の聞き取りには半日以上の時間を要しましたが、私も皆様の大切なお子さんの現状を理解し、次に向けての課題を共有することができました。また、全体にかかわる内容については、全職員で共通理解を図らせていただきました。ご多用の中、本当にありがとうございました。面談アンケート、面談の中でいただいた「バスの閉じ込め事故」に関する「クラクションを鳴らす指導」については、命に関わることなので、全クラスで指導することができました。子ども達に聞くと、自家用車でクラクションを鳴らしたことのない子ども多数居ました。園での指導内容（園長ブログ(11/17)に詳しく記述）をご覧ください、ご家庭でも自らの命を守るためにどうしたらよいか教えていただくようお願いいたします。



読後の感想 「早く、早く」と言い過ぎていませんか？

『偶然の散歩』（森田真生著）の中に、「歩く速度でしかみえないものがある」「ともに歩いてくれる人がいるからこそ、歩く速度をゆるめることができる」とありました。

「園長先生、いっしょに散歩をしよう」と声を掛けられます。小さな手を握り、芝生の上を歩き、わんぱく山を目指すときの歩く速度は、小さな歩数に合わせて普段の何分の一になります。すると、澄んだ空気の中に浮かぶ小さな羽虫の存在や柿の木を支える幹のゴツゴツに気づき、走り回る子ども達の息づかいが聞こえてきます。カメラを手に園庭を駆け回っている時には見えなかったモノが見え、聞こえなかった音が聞こえてきます。それ以上に、一緒に歩く子の手のひらを通して感じる「思い」や「優しさ」「感動」を共有することができます。時間に追われ、やらなければならない責任や義務感で自分を見失いそうになった時、握った小さな手が教えてくれます。「もう少し、ゆっくりしていいんだよ。急いだってできることは限りがあるよ。ゆっくり歩くと、もっともって大切なことを見つけることができるよ。それが幸せって言うもんじゃないかな」って。

子どもの「ことば」



- ・チューリップの球根を植えると「今日咲くかな」。ついにはオリジナルのおまじないまで考えた子どもの姿を見て、心情が育ってきているなと感じました（保育日誌から）…冷たい風の日も、毎日じょうろで水をあげているちゅうりっぷ組の子ども達。球根を植えたその日のうちに花を咲かせて欲しいという子供心がいいですね。今日咲かないのなら、おまじないで咲かせましょうという花咲かじいさんのような子どもの世界観に心がほっこりします。どんなおまじないだったのでしょうか。
- ・年長さんと保育者の会話から。保「パパはいくつ？」 子「いくつだと思おう？」 保（若く見積もって）「20歳かな？」 子「それじゃあ若すぎるでしょう」 保（見当をつけて）「37歳かな？」 子「違うよ。お兄ちゃんが11歳で、パパが7歳で、ママが9歳」 保「そうなの！」 子「だって足の大きさが違うんだもの。ママよりお兄ちゃんの方が大きいの！」…子どもの感覚、感性は大人の常識を突き抜けていています。荒唐無稽かと言われれば、ちゃんとそれなりの理由があります（笑）



訂正 11/21に美味しい壺焼き芋を提供して下さったのは焼き鳥『鳥もと』です。『鳥よし』と案内してしまいました。謹んで訂正させていただきます。